

慶應義塾に関連した出版物や教職員の新刊著書などを中心に、本に関する情報をお届けします。

イグ・ノーベル賞昆虫学者が書く 昆虫の「生殖器と交尾」の真実

『昆虫の交尾は、味わい深い…』

上村佳孝（商学部准教授）著
岩波書店／1404円（2017年8月）



「昆虫の研究者です」と伝えると、敬意の目で見られるが、「交尾を研究しています」と言ったとたんに、怪しい人を見る視線が変わる……と苦笑いで記す、昆虫の生殖器と交尾の研究者、上村准教授が、あくなき研究心にユーモアをまぶして著した。その情熱は、トコジラミの精液を口にくわえた注射針に吸い上げ、メスの生殖器に注入するという荒業をいとうわれない。こんな描写に、シラミの生殖に興味がない人も、いつの間にか、ぐいぐい引き込まれて読んでしまう。読後には、上村准教授らの研究チームが、生殖器がオス、メス逆転する「トリカヘチャタテ」を発見し、今回イグ・ノーベル賞を受賞したことに、素直に納得できる。

教職員執筆の新刊

●出岡直也（法学部教授）、萩原能久（同）ほか編著

『アーレントと二〇世紀の経験』慶應義塾大学出版会／3888円（2017年9月）

●松浦壮（商学部教授）著

『時間とはなんだろうー最新物理学で探る「時」の正体』講談社／1080円（2017年9月）

●白井さゆり（総合政策学部教授）著

『東京五輪後の日本経済ー元日銀審議委員だから言える』小学館／1620円（2017年9月）

●荻野アンナ（荻野安奈、文学研究科教授）著

『カスス川』文藝春秋／1620円（2017年10月）

●寺澤行忠（名誉教授）著

『ドイツに渡った日本文化』明石書店／2160円（2017年10月）

●小川剛生（文学部教授）著

『兼好法師ー徒然草に記されなかった真実』中公新書／886円（2017年11月）

慶應義塾この一冊

『慶應義塾歴史散歩 全国編』

加藤三明（幼稚舎教諭）、山内慶太（看護医療学部教授）、大澤輝嘉（中等部教諭）編著
慶應義塾大学出版会／2700円（2017年10月）



北海道から九州まで、さらにアメリカと韓国まで訪ね歩いた、義塾の史跡200以上を歴史エピソードでつづる一冊。こんなところに義塾ゆかりの地があったのかと驚き、またうれしくなる話が満載。松永安左衛門、北里柴三郎、犬養毅、尾崎行雄、福澤桃介など、義塾にかかわる人々の足跡を知るのもまた楽しい。知的好奇心をくすぐられながら読み、ゆかりの地を訪ねて感慨を深めるのも一興。義塾を愛する歴史好きの人にはぜひ読んでもらいたい、充実の散歩読本である。